

## 朝 取れ野菜で地元と里山をPR

7月23日 SAKURAマルシェ in 光城山



地元農家の皆さんが新鮮な野菜などを軽トラの荷台で販売する「SAKURA マルシェ in 光城山」が登山口付近で開かれました。当日は軽トラ5台が出店し、登山客や地元からの買い物客でにぎわいました。また、販売と併せて「光城山1000人SAKURAプロジェクト」による桜の植樹や保全活動と里山のPRも行われました。

家族で訪れた坂井智仁さん(豊科光)は、「ナスやキュウリが新鮮。漬物などにして食べるのが楽しみ」と話しました。マルシェは8月27日(日)、9月10日(日)にも午前8時から10時まで開かれます。

## 若い感性と技術 花とともに彩る

7月19日 アルプス花街道 看板お披露目



市内の沿道をマリーゴールドなどの花で彩っているアルプス花街道実行委員会は、参加している団体の区画に設置する看板をお披露目しました。杉材で作られた看板は、穂高商業高校と南安曇農業高校の生徒がデザインし、木曽青峰高校の生徒が製作。今回製作した看板は59団体分です。マリーゴールドや北アルプス、白鳥など安曇野をイメージしたデザインとなっています。白木碧さん(穂高商業高校2年)は「完成した作品を見て感動した。市内に飾られるのがうれしい」と喜び、青木一武さん(木曽青峰高校2年)は「良いデザインなのでしっかり作らなければならないという気持ちで作った」と話してくれました。

## 節目の20周年 山麓地域の力で活気!

7月22日・23日 Vif穂高20周年記念フェア あづみのまるしえ・オーガニックマーケット・コドモくらふと

農産物直売所のVif 穂高が開館20周年を迎え、記念フェアが開かれました。市消防団音楽喇叭隊音楽部や和太鼓の演奏、スイカ割りなどのイベントのほか、新鮮野菜や加工品、手打ちそばやおやきなどの軽食の販売が行われました。フェア実行委員長の堀内孝雄さんは、「ここまで続けて来られたのは、生産者や地元の皆さんのおかげ。山麓の恵まれた環境を生かして地元の活力の場として今後も頑張っていきたい」と抱負を語ってくれました。22日には隣接する温泉公園と八面大王足湯周辺で有明地域の有志で運営するオーガニックマーケットとコドモくらふとが同時開催され、大勢の親子連れや家族でにぎわいを見せていました。



## 思いを一つに! 中学生球児集結

7月13日 オール安曇野野球クラブ発足式



中学校の野球部員が減少傾向にある中、市内中学校の野球部を統合し、練習や大会出場を行う「オール安曇野野球クラブ」の発足式が開かれました。当日は市内7校から集まった1、2年生19人のクラブメンバーのほか保護者、指導者が出席しました。

代表を務める穂高東中学校教頭の保科潔さんは、「皆さんは、オール安曇野の歴史を作っていく最初のメンバー。安曇野市の皆さんから1番応援されるチームの中の1番を目指しましょう」とエールを送りました。塚田陽仁さん(穂高東中2年)は「新チームになって不安や緊張もあるが仲間と協力し頑張りたい。応援よろしくお願いします」と決意表明をしました。

## 今に通ずる 白井吉見の創業精神

7月12日 白井吉見文学館講演会



筑摩書房の初代編集長として、多くの作家を世に出すとともに、小説『安曇野』で「安曇野」の名を広めるきっかけを作った白井吉見。命日の7月12日に合わせ、筑摩書房株式会社代表取締役社長の喜入冬子さんによる講演会が開かれ、約90人が筑摩書房の歩みや現在の出版業界にまつわる話に聞き入りました。

喜入さんは「白井吉見が『周りに流されずに自分の思いをきちんと言葉にすることが必要』と考え創業につながった」と話し、「不確かな情報が飛び交う時代では、内容に責任を持ち、確かなことを伝える“本”を通じて教養を身につけることが重要になっている」と語りました。

## 安曇野で感じるトップ選手の技術

7月15日~17日 第1回キッズパドリングキャンプ

カヌースラローム競技に取り組む子どもたちが全国から集い、練習しながら交流するキャンプが龍門湖公園前川などを会場として開かれ、小学生から高校生25人が参加しました。このキャンプは、元カヌースラローム日本代表選手の吉田拓さん、矢澤一輝さん、安藤太郎さんらが企画。自身が子どもの頃に経験したように、所属チームや地域を超えて、同年代の選手とともに過ごし、カヌーを楽しんでほしいとの思いから初めて行われました。ジュニアの日本代表選手にも選出されている田中羽音さん(中2)は「いつもと違うコーチから教わることができ、勉強になる。大会では見かけない子も大勢いて、にぎやかで楽しい」と話してくれました。

